

A September 2018 Report regarding a number of Villages in Tianjin City and Shanxi Province (14)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-07-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Benn, Saiichi メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00054853

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



華北農村訪問調査報告(14)

— 2018年9月, 天津市・山西省 —

弁 納 才 一

はじめに

筆者らは、これまで10年余りにわたって華北農村訪問調査を実施してきたが¹⁾、今回は、2018年9月11日(火)~21日(金)、羽田・北京を經由して天津市、山西省の太原市・J県・L県などを訪問し、農村で話を聞くことができた。このうち、山西省J県D村への訪問は、陳鳳(神戸学院大学非常勤講師)の案内によって可能となった。

よって、今回の日本側からの参加者は、内山雅生・弁納才一・祁建民・田中比呂志・古泉達矢・菅野智博・席金花・陳鳳の8人で、毛来霊らの協力を得て農村訪問調査を実施することができた。

なお、本稿では、前稿までと同様に、主に煩雑さを避けるために、原則として算用数字と常用漢字を用いるとともに、敬称を略した。また、個人のプライバシー保護の観点から、訪問した農村における聞き取り調査にかかわる人名・地名・固有名詞などについては基本的に伏せることにした。

I 農村聞き取り調査

(1) 山西省呂梁市J県X鎮D村

D村は、陳鳳が¹⁾14年余りにわたって訪問調査を実施した村であり²⁾、8:30にホテルを出発し、D村には9:50に到着した。太原市街地は渋滞が激しく、市

街地を通り抜けるのに約30分を要した。ホテルには元村長のRYRがその息子の運転する自家用車で迎えに来ていて我々が乗った車を村まで先導してくれた。

聞き取り日時：2018年9月14日(金) 10:00～11:10

聞き取り場所：山西省J県D村村民委員会

聞き取り対象者：MWX(村書記兼村長)・RYR(元村長：1980～94年)・
LBS(村副書記兼副村長)・KGZ(副村長)・RZX(老幹部)・
MXH

聞き手：内山雅生・弁納才一・祁建民・田中比呂志・古泉達矢・
菅野智博・席金花

通訳：祁建民・陳鳳

村の概況

- ・MXH(85歳、戊年生まれ)によれば、本村に日本兵が来た時は8～9歳で、本村が解放されたのは1947年(14歳)だったという。
- ・2018年現在、本村の人口は4,200人余りで、計1万畝の土地のうち3,000畝は工場用地として企業が使用している。農民1人当たりの年収は、2000年以前は1,800元だったが、現在はみな村内にある企業で働くようになったので、5,600元にまで増加している。
- ・本村では、1995年から2000年までの間に、村有集体企業が個人経営企業へ転換していった。本村内には大小17の企業(建築資材製造業、鑄造業、化学工業など)が営業しているが、最大規模の企業は風力発電の部品(羽や柱)を製造する「山西古冶鑫盛鑄造股份有限公司」(村外にある鑄造企業が10年前頃に本村に設立)である。約400人の従業員のほとんど大部分は本村民である。
- ・企業からの土地使用料は、本村の歳入全体の25～35%を占めている。本村の歳入の3～4%にあたる額の補助金が政府から事務費として支給されている。また、村内の道路修理などのインフラ整備費用や貧窮戸への助成金などは政府から100%支給されている。
- ・本村村民委員会は、村民に対して様々なサービスを提供している。例え

ば、村民の水道料金は無料で、55歳以上の女性と60歳以上の男性に対して小麦粉・米各1袋と食用油を年3回提供している。また、村内の農地は全て村民委員会が管理し、村内の農作業に従事する者(全て本村人)に対しては手当てを支払っている。

- ・2018年現在、本村内にある企業で働いているのは、男性が100%、女性が30~40%を占めている。

RYRについて

- ・RYRには2人の息子と2人の娘の計4人の子供がいるが、妻の実家には跡継ぎがいなかったため、息子1人と娘1人を妻の実家(L姓)の養子にした。息子のLKは、5年間、日本の岡山に留学したので、日本語が流暢で、2018年現在はRYRの企業を実質的に経営している。
- ・仕事(企業経営)の関係で、かつて何度も日本には行ったことがあり、日本の全国各地を訪問したという。なお、老幹部のRZX(84歳、申年生まれ)とは同族であるという。

話を聞いた後、我々訪問者全員に中共D村党支部・D村村民委員会が刊行した「村史」をいただいた³⁾。

村幹部や老人らと「山西古冶集団」の敷地内にある古特金賓館(1階がレストラン、2階と3階がホテル)で会食し、食後、同企業の工場を見学した。その後、D村に戻ってD村村史館・白衣廟・祠堂・「基督教会」(キリスト教会)・「馬恒年宅院・馬恒年北宅院」(馬氏の旧邸宅)・畑などを参観した。

建設されたばかりのD村村史館は、展示物が充実している上に、実際の村の档案資料なども展示されており、なかなか興味深かった。D村は、2016年12月に山西省人民政府によって「山西省歴史文化名村」に認定されている。

白衣廟は、政府に対してD村を「古鎮」として認定してもらうように申請中で、認定されれば、修築費用などが政府によって補助されるはずだという。また、かつて祠堂だったとされているところは、2018年現在、鄙びた商店として使用されていた。そして、そのすぐ近くに外壁が高くて牢固な馬氏の旧邸宅が建ち並んでいた。

(2) 山西省L県J村

聞き取り日時：2018年9月16日(日) 9:05～11:10

聞き取り場所：山西省J村

聞き取り対象者：CTS

聞き手：弁納才一・毛来霊

通訳：毛来霊

CTSの家族史

- ・父(CJA・亥年生まれ、生年月日不明)は、77歳で死去したが、2018年現在生きていたら、108歳になる(1910年生まれか)。
- ・父には、1人の兄、3人の弟、1人の姉、1人の妹がいた。父の兄(CJW・酉年生まれ)と弟(蔡建邦・寅年生まれ、CJX・巳年生まれ、CJL・酉年生まれ)はみな本村で農業に従事していたが、父は私塾で学んで読み書きができたので、親戚(父の姉の夫)のつてで天津市の「当舗」(質屋)で働いていたが、1941年に日本軍の侵略の影響を受けてその質屋も倒産したので、本村に戻ってきて農業に従事するようになった。
- ・父の姉(7人の兄弟姉妹のうち最も年上、名前は知らない)は天津市で「当舗」の「掌柜」(経営者)だった人に嫁いだ。
- ・父の妹(CYH、子年生まれ)は、本村から2.5km離れたL村に嫁いだ。本村から近かったので、昔はよく遊びに行った。
- ・母(QFY)は、父と同じ年で、L県城の出身で、実家は雑貨商店を営んでいた。
- ・妻(CRX)は、7歳年下の丑年生まれで、X県C村の出身だが、実家は貧しかったので、経済的に支援した。妻の実家には両親に挨拶をするためによく訪問した。

CTSの個人史

- ・新暦の1942年8月1日の午年生まれで、1948年に本村が解放された直後は本村に小学校が無かったので、小学校へ行けなかった。1951年(10歳頃)、小学校に入学したが、教科書はなかった。後に教科書が配布された

時には「第三冊」(3年生用)だったので、内容が難しかった。

- ・L県第三区J郷(現在、J鎮)の高等小学校で2年間学んだ。宿舎に住み込みだった(「住校」。自宅から通学するのを「跑校」という)。当時から1970年代までは1人の教員が全ての科目と学年を同時に担当する「合班」(複式学級)制だった。学習内容は主に「国語」(「識字」、繁体字だった)と算数だった。
- ・1959年、C周辺で鉄道(石太線)の線路(Q県東関～C)建設工事に従事して都市戸籍となった。そして、翌1960年から約1年半、太原市の山西省建築局二公司で「架子工」(建設現場で木を用いて足場を組む仕事)として働いた。

聞き取り日時：2018年9月16日(日) 15:00～17:00

聞き取り場所：山西省J村

聞き取り対象者：CGY

聞き手：弁納才一・毛来靈

通訳：毛来靈

CGYの個人史

- ・1955年の未年生まれで、2018年9月現在、64歳になった。初級中学を卒業してから2年間、太谷(山西農業大学もある)にあった山西省果樹研究所内の山西省林業学校で果樹栽培技術を学んだ。同研究所の研究員は山西農業大学の卒業生で、山西省農業学校の先生も兼ねていた。私の家は出身階級が「貧下中農」(貧農・下層中農)ではなく、「上層中農」だったので、正規の学生にはなれなかったが、村(生産大隊)の推薦によって研修生として自費で学んだ。学費は村が負担してくれた(毎月10元支給された)。また、宿舍費や食費として家から毎月5～6元もらった。学生はみな農村出身で、卒業後は村に戻って村の林業関連の仕事をした。
- ・1978～79年頃(17～18歳頃)に山西農業学校を卒業した後、本村の生産大隊で「保管」「出納」を担当し、「林業隊」にも参加した。
- ・1979年、生産隊は解散したが、林業隊は残存した。CZS書記とともに、1996年までずっと副書記・副主任として働いた。1996年に当時の主任(村

長)が交通事故で死亡すると、4期(1回の任期は3年)連続で2008年まで主任(副書記を兼任)を務めた。2008年から2期(6年間)は主任を辞めたが、2014年から再び2018年現在まで主任を務めている。CZSが村書記を定年退職すると、その息子(CCQ)が村書記を継ぎ、私が若い村書記を補佐している。

CGYの家族史

- ・祖父(CCX)は、ずっと本村で暮らして農業に従事していたという。祖父は2人兄弟で、弟がいたが、その弟はあまりまじめに働かなかったので、土地を兄(祖父)に売却し、逆に、祖父は懸命に働いて土地を買い増していった。その結果、土地改革の時は、祖父は「上層中農」と階級区分され、祖父の弟は「貧農」と階級区分された。一方、祖母(ZLX)は、L県Yの出身であり、小さい頃に訪問したことがある。
- ・父(CXL, 丑年生まれ)は、20年前に死去したが、2018年現在生きていれば、97歳になる(1925年生まれか)。1945年に人民解放軍に入隊し、上海市や南京市の解放に参加し、朝鮮戦争にも参加した。1953年には太原汾河文峪水庫保衛処に勤務した。1960年に本村に戻って個人経営の炭鉱で働いたが、炭鉱事故による労災で入院し続けた。父は2人兄弟で、弟のCLGはL県の「二峰山」鉄鉱工場で働いていたが、20年前に亡くなった。その4人の子供のうち、末っ子はこの社区で暮らしており、その他の3人は「二峰山」鉄鉱工場で働いていたが、2018年現在は別のところで働いている。
- ・母(CYE, 87歳)は、次女として1932年の申年生まれで、本村から約「15里」(約7.5km)離れたY村の出身だった。その弟は亡くなったが、その妻が健在なので、今でもよく訪問している。母の母親は3人の娘を生んだが(母以外の2人は死去)、若くして夫を亡くし、再婚して息子(母の弟)を生んだ。
- ・五男一女の6人きょうだいである。私(CGY, 長男)は、本来は「書堂」という名前だった。次男(CSM)は土で窯洞を造る作業中に事故で死去した。三男(CSL)は、炭鉱事故で死去した。四男(CSJ, 53歳)は、Lで建築材料会社の「経理」になった。五男(CSY, 未年生まれ, 52歳)は、軍に入隊(後

に幹部になった)して都市戸籍となり、退職後は毎年1,000元余りの年金を支給されてJ鎮で暮らしている。妹(CFM, 1973年生まれ)は、本村のCRH(農業・「打工」に従事)と結婚し、2018年現在、この社区に住んでいる。

C氏の祭祀

- ・ C氏は、昔、河南省上蔡から2人の兄弟が本村にやって来て、後に「2家」に分かれ、さらに、2018年現在は「4家」に分かれている。子供の頃、清明節の時に全てのC氏が集まって墓前で参拝したのを憶えている。
- ・ 私(CG Y)の家は「大C」であり、私の妹の夫の家は「小C」である。C氏は「4家」から「5家」に分裂するかもしれない。

旧村の現況

- ・ かつて本村があった場所の土地、本村経営の林業公司、樹木などは全て石炭会社にリースしており、本村はリース料を受け取っている。現在でも、かつての村の建物がいくつか残っているという。

(3) 山西省H市Y村

Hの高速道路を降りたところで(ディーゼル車の通行を禁止するための検査所が設置されていた)、H市水利局ZAG局長と合流し、Y村に同行していただいた。Y集中供水管理站(WBH宅)にはたまたまWBHの両親が来っていたので、父親のWSNにも話を聞いた。WSNの個人史・家族史はWBHの説明⁴⁾とは異なる点があった。なお、WBHから説明があった四社五村に生じた変化に関する詳細については、祁建民が整理する予定になっている。

聞き取り日時：2018年9月17日(月) 9:50~11:50

聞き取り場所：山西省H市Y村Y集中供水管理站

聞き取り対象者：WBH・WSN

聞き手：内山雅生・弁納才一・祁建民・田中比呂志・古泉達矢・
席金花

通訳：祁建民

四社五村

- ・2018年春、Y村が「大祭」を主催した。Y村のレストランで10卓が用意されて食事が提供され、70～80人が参加した。その時、上下水道の整備が進みつつある四社五村に関するいくつかのことが決定された。最も重要な点は、「大祭」の食事代は四社全てが負担し、従来の輪番制を維持するが、水代はY村とX村のみが負担するということである。よって、四社五村の伝統は辛うじて維持されているが、水利共同体としての四社五村は実質的には二社二村となってしまった。そして、「水権」の日数は、Y村とX村が各14日で、各2,700元余りを徴収することになった。なお、2019年はX村が「大祭」の主催村となっている。
- ・Y村村長(3期目)のZBB(46歳)が四社五村に留まるようにC社(QD村・QX村)を説得したという。

WSN(WBHの父)の個人史・家族史

- ・私(WSN)は、河南省新郷市H県L村(W姓村)で生まれたが³、河南省で1940年代初め頃に大干ばつが発生すると、一家を挙げて徒歩で27日かけて山西省にやってきた。その時、WSNはまだ赤ん坊だった。最初は、H県G寺に行き、寺から無料で食事を提供された。その後、G寺の近くの山間部に定住した。東西・南北それぞれ約25kmの土地にL県をはじめとする河南省各地の農村からやって来た難民約70戸が暮らすようになった。後に、その村は「tie-si-niang」(鉄四娘?)と呼ばれるようになった。2人の妹はその村で生まれた。上から2番目の姉はその村に嫁いだ。なお、その村は地方政府の管轄外の空白地帯だったので、徴税されることもなかった。
- ・G寺の近くの村にいた時、その村が「解放」され、「貧農」と階級区分された。間もなくして、互助組に参加した。
- ・15歳の時、Y村に移住してきた。石臼を売った代金としてY村やL村などで合わせて30～40畝の土地をもらった。牛に牽かせる石臼を買うような人は大土地所有者の金持ちだった。やがて、初級合作社に参加し、3年後には高級合作社となった。さらに、十数年間、第二生産小隊長を務めた。集団化時代、農業に従事しながら、石臼も造り続けた。

- ・ 25～26歳頃に両親が亡くなった。
- ・ 50歳を過ぎた頃に、河南省の故郷に帰って墓参りをしたことがあった。かつては貧しくて草で屋根を被っていたが、Y村よりもずっと豊かになっていたと感じた。
- ・ 妻(MQY)は、1960年に食糧不足だったために、河南省からH市Y村へ祖母などとともにやってきた。

(4) 山西省H県X郷X村

聞き取り日時：2018年9月17日(月) 14:10～15:10

聞き取り場所：山西省H県X郷X村村民委員会

聞き取り対象者：ZGH(会計)・JSZ(「管水的」)・WJJ(副村長)

聞き手：内山雅生・弁納才一・祁建民・田中比呂志・古泉達矢・
席金花

通訳：祁建民

水利

- ・ 本村では四社五村の水を生活用水として利用しており、渇水時にはY村から水を借りている。本村の水代はもともと1人当たり4元だったが、2008年からは水代を徴収していない。本村の水代は村書記のJYFが支払っている。
- ・ 2018年春の四社五村の大祭には本村の副村長のWJJ(党支部幹部を兼ねる)が参加していた。H県水利局が水道管敷設の費用を支出している。

村の概況

- ・ 本村の総人口は1,200人、農地面積は計2,200畝、総戸数は430戸で、このうち4～5戸が貧困戸だったが、2018年現在、トラクターを購入した家と自動車を購入した家が「脱貧」と見なされた。貧困戸は、政府から毎月1人当たり400～600元を支給されている。本村の姓は、多い順にX, J, Zなどとなっている。本村の1人当たりの年収は2,000～8,000元である。
- ・ 2018年現在の村民委員会の建物は6年前に建設されたが、元々の村民委

員会の建物は小学校になっている⁵⁾。中学校は本村から約7.5km離れたY村にあり、生徒は宿舎に宿泊している。週末、親が宿舎に自動車を迎えに行く。

- ・本村では、主に玉蜀黍・小麦・蔬菜(トマト・長ネギなど)を栽培しているが、林檎・桃・「海堂」などの果樹栽培面積は計70～80畝と少なく、灌漑もされていない。収穫した林檎は個人で県城へ売りに行っており、共同出荷などはしていない。また、4～5戸の家が豚を飼育しており、養豚数が最も多い家では約400匹の豚を飼育している。さらに、3～4戸の家が合わせて約400頭の羊を飼育している。
- ・本村の書記(JYF)は、30～40歳代の本村人だが、洪洞県城で電信関連会社を経営しており、普段は家族とともに県城に住んでいる。かつて両親が本村に住んでいたが、父親が亡くなってからは母親も県城で暮らすようになった。
- ・本村には党員が約40人おり、党支部委員は計5人で、毎月15日に会議を開催している。また、村民委員会委員は主任1人・副主任2人・委員2人の計5人おり、主任(村長)が水道管を管理し、水道管の修理費用を政府に申請している。
- ・1953年に互助組が成立し、1955年に初級合作社が1社だけ成立し、1958～59年頃に高級合作社ができた。三年困難期には1人当たり5両の食糧が配給された。1960～61年が最も困難だったが、本村では餓死者は出なかった。河南省Y県から十数人の難民がやってきたが、みな夫が餓死した女性で、そのまま本村に留まった。
- ・若い人は、ほとんどが村外で「打工」をしており、遠くは北京や江蘇省にまで出かけている。よって、本村では高齢者が農業に従事するか、他人(本村人)に耕作を委託している家もある。

(5) 山西省G村

聞き取り日時：2018年9月18日(火) 10:05～11:20

聞き取り場所：山西省G村村民委員会

聞き取り対象者：LWZ

聞き手：弁納才一・毛来靈

通訳：毛来靈

LWZの個人史

- ・新暦1948年1月7日(旧暦11月27日, 亥年生まれ)に生まれた。1957年(9歳), 小学校に入学し, 4年間学んだ。1960年に小学校を卒業して農業に従事したが, 1960年は食糧不足が最も厳しく苦しかった。
- ・本村には3つの生産小隊があり, 1961年から第三小隊に入社した。第三小隊の小隊長は本村人のLZQ(故人)で, 蔬菜栽培の「技術員」だった。本村の山地の畑300畝では穀物(玉蜀黍か小麦)を栽培したが, 「水田」200畝は「蔬菜基地」に指定されており, 汾河の水を利用して蔬菜を栽培し, L県の蔬菜会社に納め, 県から食糧として玉蜀黍と馬鈴薯(馬鈴薯2kgは玉蜀黍0.5kgに相当)を配給された。本村の川向こうにある富家灘炭鉱で働いていた多くの炭鉱労働者に蔬菜を提供する必要があった。また, 0.1畝の自留地が与えられていたが, 自分が吸うために「早煙」(煙草)を栽培していた。なお, 2018年9月現在は1箱3.5元の煙草を吸っていた。2日で1箱を吸うという。
- ・改革開放以降, 1人当たり0.2畝の土地を再配分され, 玉蜀黍を栽培し, 自家消費分の蔬菜を栽培するようになったが, 息子(後述)も含めて若い人は農業をしなくなった。蔬菜は, 湖南省・湖北省・河南省などから良質で安価なものが大量に流入しているので, 販売目的で栽培することはなくなった。

LWZの家族史

- ・祖父母には子供が無かったので, 父(LCQ)を養子として迎えた。父は, 1919年? (未年)にL県城の貧しい家(C氏)に生まれたので, 養子に出さ

れ、本村で野菜栽培をしていた。

- ・母(Z五姑娘)は、1930年(午年)生まれで、父より11歳年下だった。母は、張家庄鉞の近くの張家庄村の貧しい農家(「土窩洞」に住んでいた)の出身で、実家は野菜を栽培していたが、跡継ぎがいなかったため、生産隊が両親の世話をしていた(「五保戸」)。14~15歳頃に嫁入りさせられた。母には、4人の姉と1人の妹がいた。4人の姉は、それぞれG村・N村・N村(若くして亡くなった)・W家里(嶺?)に嫁ぎ、妹は張家庄村に嫁いだ。
- ・3人の子供がいる。長女(LCP)は、亥年生まれ(48歳)で、L県Y郷に嫁ぎ、その夫(ZJB、亥年生まれの48歳)は県城で炭鉞関連の「打工」をしている。次女(LLP)は、長女より3歳年下(寅年生まれか)で、L県T鎮Y村に嫁ぎ、その夫(ZYW、亥年生まれの48歳)はLで炭鉞関連の「打工」をしている。長男(LXH)は、未年生まれ(40歳)で、N鎮で炭鉞関連の「打工」をしており、その妻(YGH、申年生まれの39歳)はQ村の出身である。

「介休南四鉞」

- ・毛来霊によれば、汾西鉞務局が管理する炭鉞として張家庄鉞・南関鉞・両渡鉞・富家灘鉞の4つの炭鉞があったが、これらの炭鉞が廃れると、炭鉞労働者は孝義県柳湾の炭鉞へ遷って行った。
- ・文革以前、富家灘炭鉞は山西省の石炭関連の幹部の出身地だった。例えば、山西省工業局局長は炭鉞工場長とL県書記長も兼ねていた。

村の概況

- ・人民公社時代、5斤の野菜を納入すると、1斤の食糧穀物(4斤の芋類に相当)が配給された。野菜が豊作になると、見返りの穀物なども多く配給された。また、煙草の配給(「公煙」)は1ヶ月につき5箱(1箱に20本)で、銘柄は「大前門」(1箱0.3元、北京工場)・「緑葉」(1箱0.1元、太原工場)・「火車」(1箱0.1元、太原工場)があった。さらに、野菜などを運搬する際には人民公社のトラクターを利用し、騾馬4頭の他に、耕作用の牛が7~8頭おり、鶏と豚は各戸で数羽と数匹ずつ飼育していた以外に、「放羊的」(羊を飼育する人)が1人おり、700頭の羊を飼育し、その羊の糞を肥料に

していた。

- ・1980年に農業「集体化」が停止し、1980年代以降、本村から2～3km離れたH村の人が個人のトラクターで耕作を請け負うようになった。耕作料は1畝につき40元である。1982年前後に3戸がビニールハウスを作って蔬菜を栽培したことがあったが、汾河の水が冷たすぎてうまくいかなかった。2018年現在、栽培されている蔬菜はキャベツ・胡瓜・トマト・茄子・青菜・西葫芦・唐辛子・芹・葱・白菜・人参などがある。
- ・7～8年前から5～6戸が自家用車でN鎮まで通勤している。また、4～6年前から4～5戸の若者が100トンの大型トラックで石炭を運搬する仕事をしているが、2018年現在、道路が傷むのを予防するために、30トン以下のトラックに制限されている。

(6) 山西省H市D鎮J村

聞き取り日時：2018年9月18日(火) 15:10～16:20

聞き取り場所：山西省H市D鎮J村

聞き取り対象者：LB・LDS・LJH・LJJ・LHM

聞き手：内山雅生・弁納才一・祁建民・田中比呂志・毛来靈・古泉達矢・席金花

通訳：祁建民・毛来靈

聞き取り対象者

- ・LB(成年生まれ、73歳)、LDS(成年生まれ、73歳)、LJH(午年生まれ、64歳)、LJJ(丑年生まれ、70歳)、LHM(成年生まれ、58歳)の5人が話をしてくれた。
- ・LJJは、1968年に高校(「高中」)を卒業し、「民辦」教師になったが、後に「公辦」教師となって都市戸籍になった。教師をやりながら、山西教育学院で学んで高校の教員になる資格を獲得して高校の教師になった。その後、H市一中(「高中」)の校長を十数年間務めて、すでに定年退職した。
- ・LHMは、本村内で商店を経営している。父(故人)は、1950年代にT農業

学校(現在の山西農業大学)を卒業した後、県気象站で働いていた。

- ・LBは1966年に高校を卒業した。LDSは本村の保健室の医者である。LJHは媯皇廟の管理人である。

村の概況

- ・本村は、「秀才村」と呼ばれていた。明清時代に「秀才」と「拳人」を合わせて270人も輩出し、「四品」となった者もいた。このように、本村では教育を重視する伝統があり、1949年以降、500人以上の大学生・大学院生を輩出し、そのうちの200人ほどが教師になり、大学教員や研究員などの高い「職称」の者も50人ほどいる。2007年から2017年までの10年間、毎年、11人の大学生を輩出し、高校入試の成績もよい。
- ・本村の人口は、解放時は700~800人だったが、2018年現在は1,800人で、計1,800畝の農地のうち「乾田」と「水田」(灌漑農地)が半分ずつである。「旱田」には菓草を植え、「水田」には主に玉蜀黍を植えている。「水田」にはもともと水稲も植えていたが、1990年代以降、水不足のために水稲を植えるのを止めた。
- ・1954年、互助組がいくつかできた。1955年にJ村初級合作社が成立し、その後、先鋒高級合作社(J村)となった。1958年、人民公社が成立して5つの生産小隊ができた。LHMは第一小隊、LJJは第二小隊、LBは第三小隊だった。
- ・本村には村辦企業はない。改革開放以降、個人経営の商店や「飯館」(食堂)がある。煉瓦工場はあったが、倒産してしまった。1983年に『光明日報』で本村が「科技村」として紹介されたことがあった。輪作(小麦・玉蜀黍)・間作(菠薐草・大豆)が行われてきた。

L氏一族の歴史

- ・本村は650年以上の歴史があるが、それはL氏の歴史でもある。山西省Q県に住んでいたLXが元末に七里峪にやって来て、それから3代約60年間にわたって開発を続けて林業・農業に従事した。その後、LGが七里峪から賈村にやってきた。L氏宗祠を作った。

- ・解放前、清明節の時に祠堂で先祖をまつる祭祀が行われ、春節の時も祠堂に参拝して紙銭を焼き、子供はお年玉をもらった。「下了J村坡秀才比驢多」「三年一小祭五年一大祭」などの言葉(言い伝え)が残っているが、これは、本村出身の「秀人」が驢馬に乗って祭祀に参加する際に、「秀人」の人数が多すぎて驢馬の数が足りないほどだったということを表している。また、清明節の時、L氏一族を代表する男性たちが七里峪へ墓参に行つて会食もしたという。
- ・2018年現在、L氏は七門に分かれており、第三門と第四門が多い。7世祖LAがまとめた10代目までのL氏の族譜があり、族長が管理しているが、11代目からは各「門」ごとに族譜を作成している。族譜は、これまで7回改訂が行われ、その度ごとに「前書き」も書かれてきた。族譜の「複印版」もある。L氏の族訓は「耕読孝友」である。子供が生まれると、10文字の「輩份」から名前の1文字を選んでいるが、その「輩份」がすでに1周したので、新たな「輩份」を作成した。

II 訪問地

(1) 天津市

2018年9月11日(火)、北京の首都国際空港に到着すると、南開大学歴史系教授の張思の学生(許昊、博士課程3年生)が出迎えてくれた。同日午後、南開大学歴史学系教授の張利民の案内によって静海県馮家村を参観した。そして、同村へ行く途中、梨栽培農家たちであろうか、路上で梨を売っていた。また、玉蜀黍畑が広がっていた。本村の書記に村の概況などを聞いた。

聞き取り日時：2018年9月11日(火) 15:45~16:15

聞き取り場所：天津市静海県馮家村村民委員会

聞き取り対象者：村書記(張建華)

聞き手：内山雅生・弁納才一・祁建民・田中比呂志・古泉達矢・菅野智博・席金花

通訳：祁建民

村の概況

- ・馮家村はもともと府君廟郷に属していたが、2001年に府君廟郷は独流鎮になった。また、天津市静海県は2017年に天津市静海区になった。2018年中に新しい村民委員会の建物を建てる予定である。
- ・本村の人口は560人で、農地は約1,200畝あるが、そのうち4分の1には蔬菜が栽培されている。農家1戸当たりの年収は2万元あるが、その主要な収入源は蔬菜栽培と出稼ぎ(「打工」)である。また、2016年からは農業への補助金として1畝当たり2万元が支給された。
- ・2012年、新農村建設経費として210万元を手当てされ、上下水道が整備されて各戸に水道が通り、泉城の水利局が管理する水道とつながった。2013年には村の道路が全て修理(舗装)された。
- ・2016年、政府の呼びかけに応じて自費で村内の16ヶ所に監視カメラを設置し、140万元の補助金を得て電動式のビニールハウス(「大棚」)をつくった。ビニールハウスでは青菜・セロリ・茄子・胡瓜・インゲン豆などを栽培している。
- ・2018年現在、本村には5つの企業がある。そのうち最大の工場は、元村長劉の所有する(現在、車椅子を使用しており、その息子が経営者となっている)自動車部品工場で、もともと村辦企業だったが、当初より経営不振に陥っていたので、1980年代に元村長の個人経営に転換したものだ。
- ・この辺りの村々は村の党支部書記と村民委員会主任(村長)は兼任しているという。すなわち、まず村の党員によって党支部書記が互選され、その書記が村民選挙(信任投票)によって村長に選ばれることになっているという。

14:30~17:20、村内の元村長の自動車部品工場や電動式ビニールハウスなどを見学し、18:30にホテルにチェックインした。なお、帰り際に村でガスの埋設工事が行われていたのを見た。

そして、翌12日(水)には張思の案内によってかつて満鉄が調査を実施した後家営村を参観した。8:00にホテルを出発し、11:20に本村に到着した。途中、塘沽近くの沿海部にはエビの養殖場(海水)が広がっていた。かつて海だった

ので、アルカリ土質のために畑には不向きな土地だった。また、工場、火力発電所、風力発電装置(「能風電」)などがあり、楽亭付近には「李大釗故居」「李大釗紀念館」などの標識が見えた。侯家營村村民委員会には、村書記(劉志堯)の他に、村長(侯元山)、昌黎県政治協商委員会主任(杜希傑)、泥井鎮鎮長(張晨)などがきていた。

聞き取り日時：2018年9月12日(休) 11:20~12:05

聞き取り場所：河北省昌黎県泥井鎮侯家營村村民委員会

聞き取り対象者：劉志堯(村書記)

聞き手：内山雅生・弁納才一・祁建民・田中比呂志・古泉達矢・菅野智博・席金花

通訳：祁建民

村の概況

- ・本村の人口は780人で、農地面積は計2,400畝である。そのうち玉蜀黍が1,500畝と最も多く、これに次ぐ落花生が700~800畝で、小麦も栽培されているが、蔬菜の栽培は少ない。また、農民1人当たり2.2畝の土地を分配され、その収入は2,000元である。毎年、1畝当たり9,000元の補助金を支給されている。さらに、60歳以上の人には毎月90元の年金が支給されている。
- ・2016年から県安全検査局によって新農村建設が開始された。村内の道路を修理(舗装)し、衛生環境も整備された。また、「国家農業開発」として30ヶ所にポンプ(深さ60m、直径33cm)で水を汲み上げる井戸を掘って農地を灌漑した。泥井と本村の2ヶ村が共同で深さ130mの地下水を汲み上げて330戸分の上下水道として利用されている。自力で深さ40mの井戸(直径33~60cm)を掘った家も95戸ある。1つの井戸で70~80畝の農地を灌漑することができる。
- ・戦前は東北(「満州」)へ出稼ぎに行く者が多かったが、現在では東北へ行く人は少なくなった。東北は農作業をする期間が短いからである。また、天津や唐山へ働きに行く人も少ない。むしろ周辺の農村で落花生の収穫

を手伝ったり、遠くはチベットや浙江省杭州へ働きに行く人が多い。チベットでは主に電線の架設工事に従事し、浙江省杭州市では商売をしている人が多い。

- ・本村に企業はない。毛皮を採るために、「貉子」(むじな)を飼育する農家が15戸ほどおり、計2万匹いる。河北省滄州から商人が買付けに来る。荒佃庄郷には毛皮加工工場がある。
- ・抗日戦争時期、泥井鎮の南方に八路軍の根拠地があった。日本軍は本村を占領していたが、夜になると、八路軍がやって来た。
- ・本村にはかつて老爺廟があったが、1958年の大洪水で流されて亡くなってしまった。祠は無かった。
- ・本村には「赶集」(定期市)は無いが、泥井鎮では4日・9日・14日・19日・24日・29日の5日ごとに「赶集」がある。

同村民委員会で話を聞いた後、本村内を参観し、合盛大酒店で会食をした。昌黎県政治協商委員会主任の杜希傑によれば、昌黎県の北部の山間部では果樹(とりわけ「密梨」が有名)の栽培が盛んだという。

(2) 山西省

2018年9月13日(木)、高速鉄道で天津から太原へ移動した。

晋商国際大酒店の部屋はメンテナンスが全くされておらず、電気関連をはじめとしていくつかの箇所に不具合が生じていた。毛来靈によれば、会議開催のために宿泊する客が全くなかったために、収益が激減してメンテナンスに費用をかけることができなくなったからだという。宿泊客が少なく、非常に静かだった。翌14日の朝食は内容が貧弱になっている上に、食事をしている客も少なかった。

おわりに

今回、陳鳳の紹介によって初めて山西省J県D村を訪問し、村幹部などに村の概況などを聞くことができた上に、同村内を案内していただくことができ

た。来年も再び同村を訪問して話を聞かせてもらう許可を得た。今回は太原市のホテルに宿泊して農村まで往復したが、次回は同村の近くのホテルに宿泊して話を聞くことを計画している。

また、山西省H市D鎮J村では旧幹部や老人に初めて話を聞くことができた。次回はもう少し時間をとってじっくりと話を聞きたい。

以上のように、今回は、老人に話を聞くことができる農村を新たに確認することができ、現在の村の幹部を含めて現地との了解と了承を得ることができた。この点は、我々が今後の中国農村訪問を継続させていく上で大きな成果でもあった。

注

- 1) 拙稿「華北農村訪問調査報告(1)－2007年12月、山西省太原市・霍州市農村」(『金沢大学経済論集』第29巻第1号、2008年12月)・同「華北農村訪問調査報告(2)－2008年12月、山西省太原市・平遥市・霍州市の農村」(『北陸史学』第57号、2010年7月)・同「華北農村訪問調査報告(3)－2009年12月、山西省P県の農村」(『日本海域研究』第42号、2011年3月)・同「華北農村訪問調査報告(4)－2010年8月、山西省P県の農村」(『金沢大学経済論集』第31巻第2号、2011年3月)・同「華北農村訪問調査報告(5)－2010年12月、山西省の農村、金沢大学経済論集』第32巻第1号、2011年12月)・「華北農村訪問調査報告(6)－2011年8月、山西省の農村、金沢大学経済論集』第32巻第2号、2012年3月)・同「華北農村訪問調査報告(7)－2012年8月、山西省の農村」(『金沢大学経済論集』第33巻第1号、2012年12月)・同「華北農村訪問調査報告(8)－2013年8月、山西省の農村」(『金沢大学経済論集』第34巻第1号、2013年12月)・同「華北農村訪問調査報告(9)－2014年8月、山西省の農村」(『金沢大学経済論集』第35巻第1号、2015年1月)・同「華北農村訪問調査報告(10)－2014年9月、河北省・山東省の農村」(『金沢大学経済論集』第35巻第2号、2015年3月)・同「華北農村訪問調査報告(11)－2015年9月、河北省・山西省の農村」(『金沢大学経済論集』第36巻第2号、2016年3月)・同「華北農村訪問調査報告(12)－2016年9月、河北省・山西省の農村」(『日本海域研究』第49号、2018年3月)・同「華北農村訪問調査報告(13)－2017年9月、北京市・天津市・山西省の農村」(『日本海域研究』第50号、2019年2月刊行予定)を参照されたい。
- 2) その成果をまとめたのが、陳鳳『伝統的社會集團の歴史的変遷－中国山西省農村の「宗族」と「社」(御茶の水書房、2017年)である。
- 3) 段村志編纂委員会編『段村志』(中共段村党支部・段村村民委員会、2017年)。馬万喜(村書記兼村長)が主編、李宝生(副村長)・李積(副村長)が副主編となっている。また、「《段村志》編纂支持単位」として山西古冶鑫盛鑄造股份有限公司をはじめとす

る11の企業が列挙されている。

- 4) 詳細は、拙稿「華北農村訪問調査報告(13)－2017年9月、山西省」(『金沢大学経済論集』第39巻第1号、2018年12月刊行予定)を参照されたい。

補記) 本稿は、科学研究費助成事業(基盤研究(B)(一般)2018年度～2022年度「社会主義経済体制下の中国農村における社会環境の特質と変容に関する再検討」(研究代表者：弁納才一、課題番号18H00876)による研究成果の一部である。